



環境活動レポート2025

(2024年4月~2025年3月)



八軒屋池（兵庫県加古郡稲美町）

日本マタイ株式会社

目次

会社概要	P3
環境経営の基本理念	P4
環境マネジメントシステムの推進体制と運営	P5
環境目標と達成状況	P7
事業活動に伴うマテリアルフロー	P9
地球温暖化防止と省資源の取り組み	P10
環境汚染防止と化学物質管理	P11
廃棄物の削減とリサイクル	P11
労働安全衛生と保安防災	P12
社会・地域とのコミュニケーション	P15
環境適合型製品	P16
企業倫理の徹底	P18
日本マタイ「環境活動」のあゆみ	P20
環境関連データ集	P21

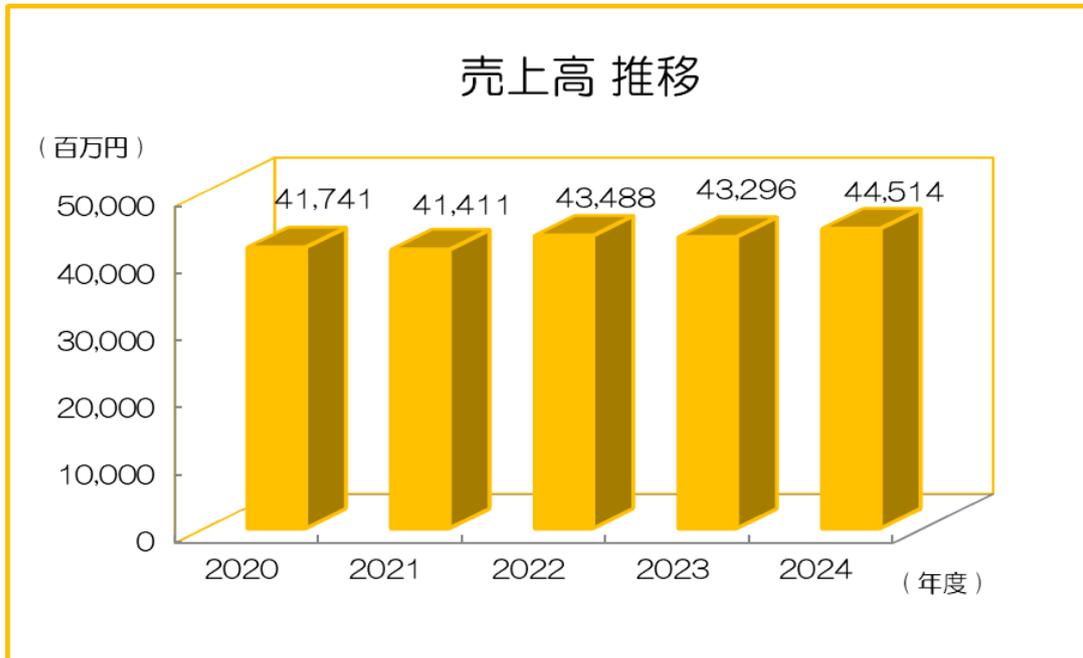
会社概要 (2025年6月17日現在)

商号 日本マタイ株式会社
 代表者 代表取締役社長 中西 孝夫
 創立 1947年 3月 19日
 資本金 72億9,222万円
 従業員数 756名 (役員を除く)

所在地 本社 〒111-0041 (〒111-8522)
 東京都台東区元浅草二丁目6番7号
 TEL03-3843-2111 (代表)

国内事業所 営業拠点：本社、大阪支店、岡山営業所、福岡営業所、札幌営業所
 製造拠点：埼玉工場、滋賀工場、研究所、兵庫工場、岡山工場

主要グループ企業 国内：マタイ紙工株式会社、三洋加工紙株式会社
 海外：江蘇中金瑪泰医薬包装有限公司、四川中金医薬包装有限公司、
 上海瑪岱貿易有限公司、MATAI (VIETNAM) CO., LTD.、
 THAI MARSOL CO., LTD.、PT MARSOL ABADI INDONESIA



事業領域と主な製品

樹脂加工品	ラミネート	<ul style="list-style-type: none"> フィルムラミネート 紙ラミネート クロスラミネート 電子部品搬送用ラミネート
	工業樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 熱可塑性エラストマーフィルム 熱可塑性多層フィルム
重包装袋		<ul style="list-style-type: none"> ポリエチレン重袋 クラフト紙袋 フレキシブルコンテナ
ネット		<ul style="list-style-type: none"> ネット資材

環境経営の基本理念

日本マタイは経営理念と環境方針に基づき、全社体制で地球環境に配慮した継続的な活動を推進し、企業活動と地球環境の調和を目指しています。

経営理念

日本マタイは、高度な技術力と誠実な流通サービスにより優れた重包装製品を提供し、お客様の商品の価値を高め、産業界の発展と生活文化に貢献する、誇りと夢のある企業を目指します。
また、あらゆる産業の物流に最適なパッケージング（包装）を総合的に開発するゼネラル・パッケージング・インダストリー、レンゴウのグループ企業として、7つの指針に基づいて行動します。

- 1. 顧客満足**
活力ある事業活動を通じて、お客様の満足と信頼を獲得し、繁栄と夢を実現する。
- 2. 法令遵守**
高い倫理観を持ち法令遵守を徹底し、常に誠実に行動する。
- 3. 情報開示**
積極的かつ正確な情報開示を通じ、広く社会とのコミュニケーションに努める。
- 4. 社員満足**
働く者一人一人の価値を尊重し、安全で働きやすい環境づくりに努め、ゆとりと豊かさを実現する。
- 5. 環境保全**
地球環境の保全に主体的に取り組む。
- 6. 社会貢献**
良き企業市民として社会に貢献する。
- 7. グローバル**
グローバル化に対応し、法令を遵守するとともに、文化習慣に配慮し経済社会発展に貢献する。

環境方針

[基本理念]

日本マタイは、企業活動と地球環境の調和を基本に考え、地球環境の保全に配慮した継続的な活動を推進します。

[基本方針]

- モノづくりの技術で価値創造を追及する容器製造メーカーとしての事業活動において、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量化、リサイクルの推進等により地球環境の汚染防止に努めます。
- 地球環境の保全に貢献するために、環境適合型製品の開発や環境に配慮した資材の調達に努めます。
- 環境に関わる法規・条例・協定及び当社が同意したその他の要求事項を順守し、一層の環境保全に努めます。
- この環境方針を達成するため、環境目的・目標を定め活動します。
また、定期的に目的・目標を見直し、環境パフォーマンスの継続的な改善に努めます。
- 全従業員の環境意識の向上を図るため、環境教育・啓発活動を推進します。
- この環境方針は全従業員に周知徹底するとともに、社外に公開します。

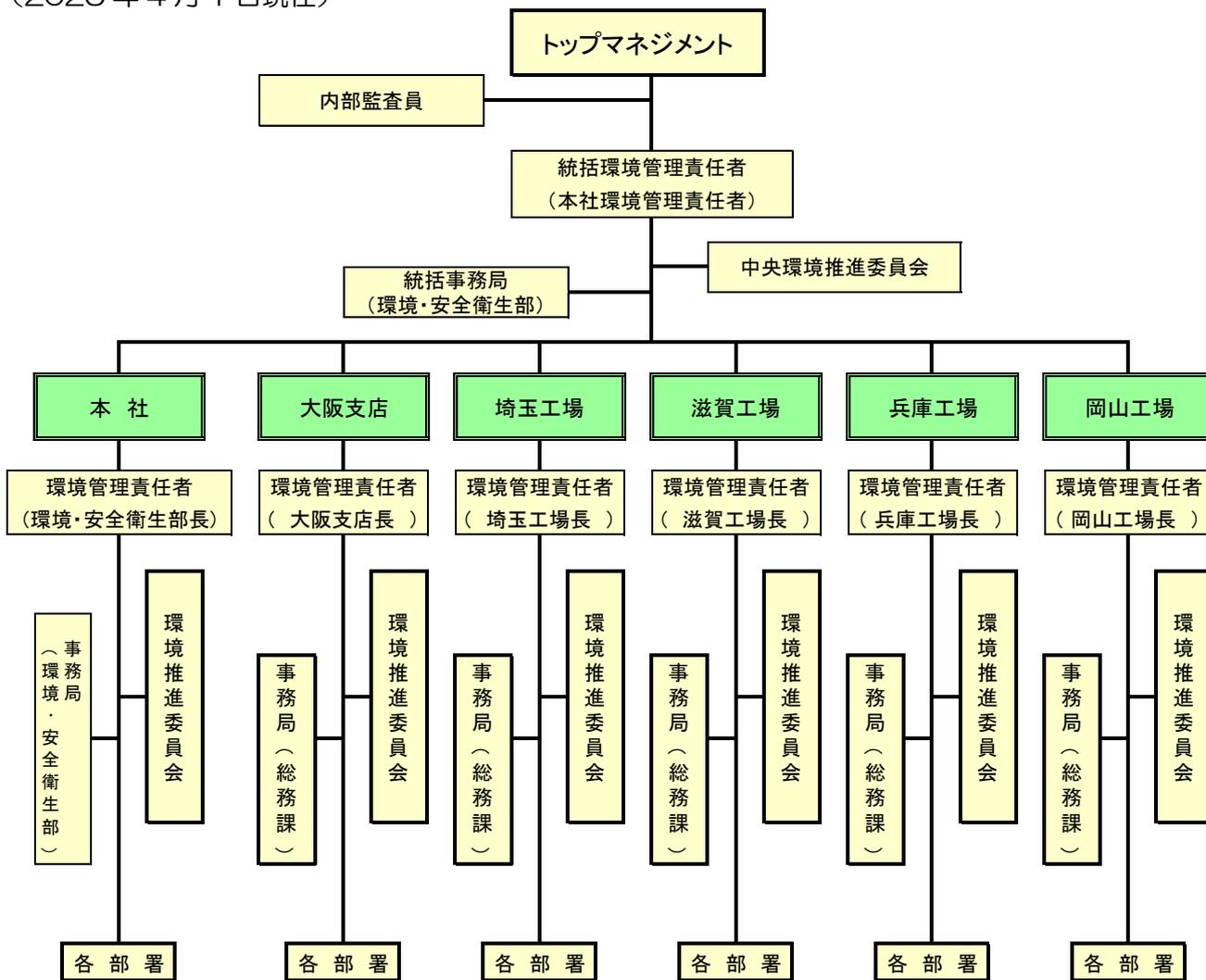
2001年8月1日 制定
2017年6月14日 改定
常務取締役 高畠 聖明

環境マネジメントシステムの推進体制と運営

全社が一体となって環境保全活動に取り組んでゆく推進体制を整備しています。
 2002年に本社・埼玉工場、2003年に大阪支店・滋賀工場・兵庫工場、2018年に岡山工場
 ISO14001の認証を取得しました。
 環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001（JIS Q 14001）に則り、内部監査や環境
 教育の充実に努め、継続的改善を進めています。
 2024年度は岡山工場内の研究所設備（コンパウンド）が認証範囲に追加されました。

環境管理組織図

環境組織図
 （2025年4月1日現在）



コンパウンドとは、
 ベースとなる樹脂に各種添加剤を加え混練することにより、
 新しい外観（透明性、着色）や、化学的特性を付与する加工の
 ことです。



コンパウンド設備（岡山工場）

内部監査

2024年度の定期内部監査は、2024年8月22日～9月27日の期間にわたり、6サイトの全32活動単位を対象に実施しました。審査目的を『PDCAサイクルを回し、継続的な改善活動が行われているか。活動はP計画、D実施、C評価、A改善さらにP計画…のように継続的に取り組んでいるか、また、PDCAの内容は適切かを確認する。』に設定し、監査を実施しました。

2024年度 内部監査結果

被監査部門（活動単位）		不適合	推奨事項
本社	10活動単位	0	14
埼玉工場	8活動単位	1	20
滋賀工場	6活動単位	0	16
大阪支店	1活動単位	0	4
兵庫工場	2活動単位	0	4
岡山工場	5活動単位	0	19
指摘合計		1	77

環境教育

当社では、環境に関する自覚を高め、必要な知識及び能力を習得させることを目的に、毎年3月に年間教育計画を立てています。新入社員の「環境教育」、全社員を対象とする「一般環境教育」、著しい環境影響の原因となる可能性をもつ業務に携わる社員を対象に専門的な内容の「特定教育」を実施しています。

また、環境関連の法律に関わる「資格者教育」や「内部監査員養成研修」など、社外での教育・研修にも積極的に参加しています。



地震消防避難訓練（本社）



環境内部監査（埼玉工場）

環境関連法規制の順守

各事業所において、毎年、環境関連法規制の自己評価を実施し、法令違反の未然防止に努めています。また、事業活動を行う上で管理基準書や標準書を作成し、関連する環境関連法規制の順守に努めています。

環境目標と達成状況

事業所ごとに具体的な目標を定め、環境パフォーマンスを遂行しています。
未達成であった項目については計画を見直し、次年度の達成を目指していきます。

2025年度の全社環境目標

項目	目標値
1. 気候変動への対応	(1) エネルギー原単位（5年平均）1%削減
	(2) 温室効果ガス46%削減に向けた具体策の検討
2. 循環型社会の形成	(1) 廃棄物排出量原単位（前年対比）5%削減
	(2) 廃棄物の有効利用率 98%以上
3. 環境問題や社会課題を解決する製品の創出	(1) 環境適合型製品の売上金額（前年対比）5%増加
	(2) 環境適合型製品への新規・切り替え件数 14件
4. 水リスクの低減	排水の管理、緊急事態（漏洩）対応への体制づくり

2024年度の全社環境目標と達成状況

【自己評価：○=目標達成 △=前年より改善（目標未達） ×=目標未達成】

項目	目標値	実績	自己評価
1. エネルギー効率の向上	エネルギー原単位（5年平均）1%削減	1.8%増加	×
2. 循環型社会の形成	(1) 廃棄物排出量原単位（前年対比）5%削減	7.2%増加	×
	(2) 廃棄物の有効利用率 98%以上	97.4%	△
3. 環境問題や社会課題を解決する製品の創出	(1) 環境適合型製品の売上金額 前年対比5%増加	8.6%増加	○

2024年度の主な環境活動目標と達成状況

【自己評価：○=目標達成 △=前年より改善（目標未達） ×=目標未達成】

1. エネルギー効率の向上			実績	自己評価
各事業所の目標		取り組み内容		
エネルギー 使用量の削減	本社	前年度比1%減 (電灯電力使用量) ・未使用部屋の消灯と空調オフを徹底する。	8.7%減	○
	埼玉工場	5年度間平均1%減 (原単位) ・工場全体のLED化を推進する。 ・エネルギー効率改善のため設備の補修を実施する。	1.9%増	×
	滋賀工場	5年度間平均1%減 (原単位) ・設備更新時、新規導入時に省エネタイプの設備を導入する。 ・設備停止時間を削減することでエネルギーロス削減する。	1.2%増	×
	兵庫工場	前年度比1%減 (原単位) ・製造現場の遮熱断熱塗装を実施。 ・工場全体のLED化を推進する。	0.9%減	△
	岡山工場	5年度間平均1%減 (原単位) ・効率的な生産体制に改善する。	1.5%減	○
製造設備 運転率の向上・ 止転時間の削減	埼玉工場 滋賀工場	3項目で設定 ・事故発生を削減することで無駄なエネルギー消費を抑制する。 ・事故要因分析、製造設備点検、定期補修の結果に基づく対応 (予防保全、予備部品保持)を充実させて設備事故停止時間を削減する。	3項目で 達成	○

2. 循環型社会の形成					
各事業所の目標			取り組み内容	実績	自己評価
コピー用紙の使用量削減	本社	前年度比10%減	<ul style="list-style-type: none"> 資料は両面印刷し、電子保存を励行する。 ペーパーレスの意識を高め、会議ではPCを活用しプリントアウトする資料を削減する。 プリントアウト時はプレビュー、枚数確認する。 不要な印刷物はないか業務の点検を行う。 	14.2%減	○
	大阪支店	前年度比2%減		8.0%減	○
	埼玉工場	前年度比1%減		5.4%減	○
一般廃棄物量の削減	本社	前年度比1%減	<ul style="list-style-type: none"> 紙ごみの重量測定を継続し、排出量削減を啓蒙する。 文書整理日を活用し余分な文書の廃棄・整理を推進する。 	7.4%減	○
産廃費用の削減	埼玉工場	前年対比5%減	<ul style="list-style-type: none"> 全従業員を対象に廃棄物分別の教育を実施する。 RPF化や有価物化で可能な限り再資源になるように務める。 	3%増	×
産業廃棄物をRPF化する	埼玉工場	RPF化98%以上	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の分別を徹底して、RPF化率を向上させる。 	98.5%	○
	滋賀工場	前年度比5%増産	<ul style="list-style-type: none"> RPF化率の向上と、販路拡大を図る。 RPF工場の作業環境改善を図る。 	40%減	×
有価物化による廃棄物の削減	兵庫工場	前年度比5%減 (原単位)	<ul style="list-style-type: none"> 有価物化、リユース、リサイクルを推進する。 廃棄物の分別を徹底する。 口金紙管処理機による分別強化 	11.2%減	○
産業廃棄物量の削減	岡山工場	製造部門での廃棄発生率15.5%以下	<ul style="list-style-type: none"> 耳ロス、樹脂ロス削減を図る。 ロスの分別を強化し、有価物を増やす。 	14.7%	○
	岡山工場	前年度比5%減	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全活動及び一般ゴミの分別を細分化する。 紙ゴミのシュレッダー利用を促進する。 コピー用紙使用量の削減。 	10%減	○
製造ロス率の削減	埼玉工場 滋賀工場 兵庫工場	7部門で目標を設定	<ul style="list-style-type: none"> 品質トラブルの発生原因の追究と対策をスピーディに行う。 生産技術課と協力し、作業環境や作業方法を見直し効率化を図る。 製造と業務でミーティングを行い、効率のよい集約生産が行えるようにする。 	2部門で達成	×
苦情・品質事故の削減	本社 埼玉工場 滋賀工場 岡山工場	9部門で目標を設定	<ul style="list-style-type: none"> 事故に対する原因の明確化と対策の確実な執行により、再発防止を図り、事故により廃棄となる原料・製品の削減を図る。 予防処置、是正処置の実施状況及びその効果についてフォローアップを行う。 	4部門で達成	×

3. 環境問題や社会課題を解決する製品の創出					
各事業所の目標			取り組み内容	実績	自己評価
環境に配慮した製品の拡販	本社 大阪支店 埼玉工場 岡山工場	20項目で設定 (営業部門)	<ul style="list-style-type: none"> 環境適合型製品の販売で環境貢献を行う。 軽量化製品、再生樹脂使用製品、生分解性樹脂製品等の販売（アクアコート製品、エルファン、PET再生繊維品、森林認証製品、溶融袋、マイアシスト袋、スタンドネット、防草シート、反射シート、軽量仕様フレコン等） 	10項目で達成	△
環境に配慮した製品の設計開発及び受注拡大	本社 埼玉工場 滋賀工場 岡山工場 研究所 大阪支店	13項目で設定	<ul style="list-style-type: none"> 営業同行による技術フォロー、技術提案を行う。 顧客要求事項を抽出し、環境への影響を配慮した製品を提供する。 環境影響が懸念される規制物質の使用有無を確認する。 環境に関する情報を配信する。 	9項目で達成	△

事業活動に伴うマテリアルフロー

事業活動に投入する資源と、排出する環境負荷の正確な把握に努め、省エネルギー、廃棄物削減に取り組んでいます。

2024 年度実績

INPUT

原材料 : 49,471 t
副資材 : 1,513 t
※梱包材を除く

水資源 : 164 km³

総エネルギー量 : 378,203GJ
電力 3,418万 kwh
都市ガス 1,892 km³
灯油 0.04 kl
LPG 21.4 t
軽油 0.28 kl
ガソリン 9.94 kl

事業活動

製品 45,521 t

OUTPUT

廃棄物総排出量 : 6,599 t
有効利用量 : 6,413 t
(有効利用率 97.2%)

RPF 製造量 : 1,581 t

CO₂ 排出量 : 18,871 t

PRTR 対象物質の
大気への排出量 : 137 t



(製品一例)

左上：ポリエチレン重袋

右上：ペタールスタンドネット

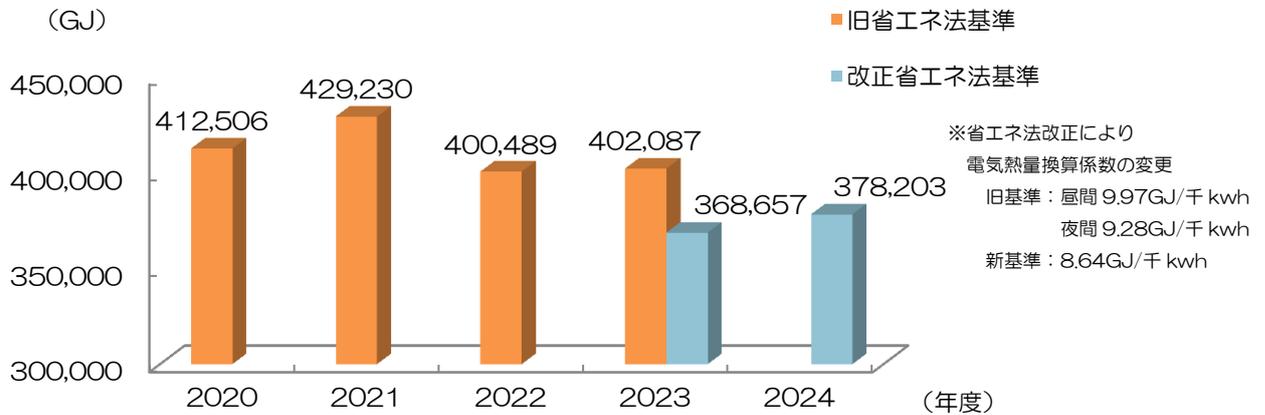
左下：耐水・撥水性コート (機能性コート紙)

右下：ホットメルトフィルム エルフアン

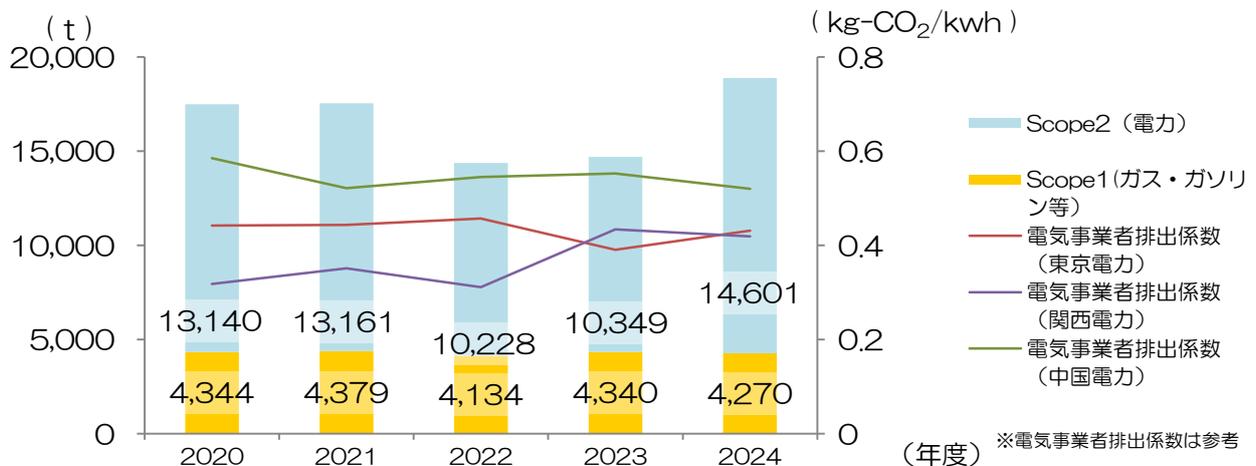
地球温暖化防止と省資源への取り組み

地球温暖化防止は、地球環境問題の中でも最優先の課題です。
各工場では設備改善を一步一步進め省資源に取り組んでいます。

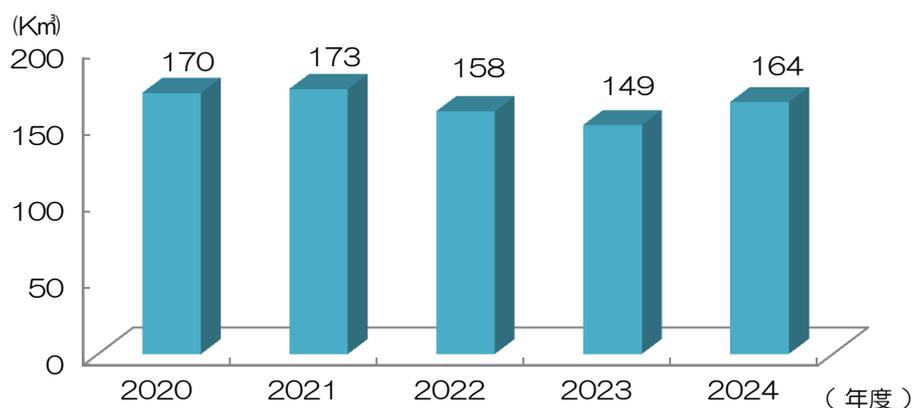
エネルギー使用量 推移



CO2 排出量 推移



水資源使用量 推移



環境汚染防止と化学物質管理

水質汚染防止への取り組み

埼玉工場と滋賀工場では、工場排水中の水質汚濁物質濃度（BOD・COD・SS）を定期的に測定し、水質の管理に努めています。また、排水を油分分離槽に通すことで油分の流出を防止しています。埼玉工場ではその他に、水性コート液のコート設備を洗浄した後の排水を排水浄化設備、排出ガス処理設備の排熱回収ボイラー排水はPH処理装置により適正值に処理して排水しています。兵庫工場では、製袋工程で使用する水性糊の洗浄水を沈殿槽に通すことで水質汚染を防止しています。

大気汚染防止への取り組み

当社ではVOC（揮発性有機化合物）を含むインキや溶剤を使用しており、加工中にVOCが大気中に排出されます。VOC排出量を削減するため、埼玉工場では排出ガス処理設備（VOC処理装置）を設置して、大気へのVOC排出量削減に努めています。



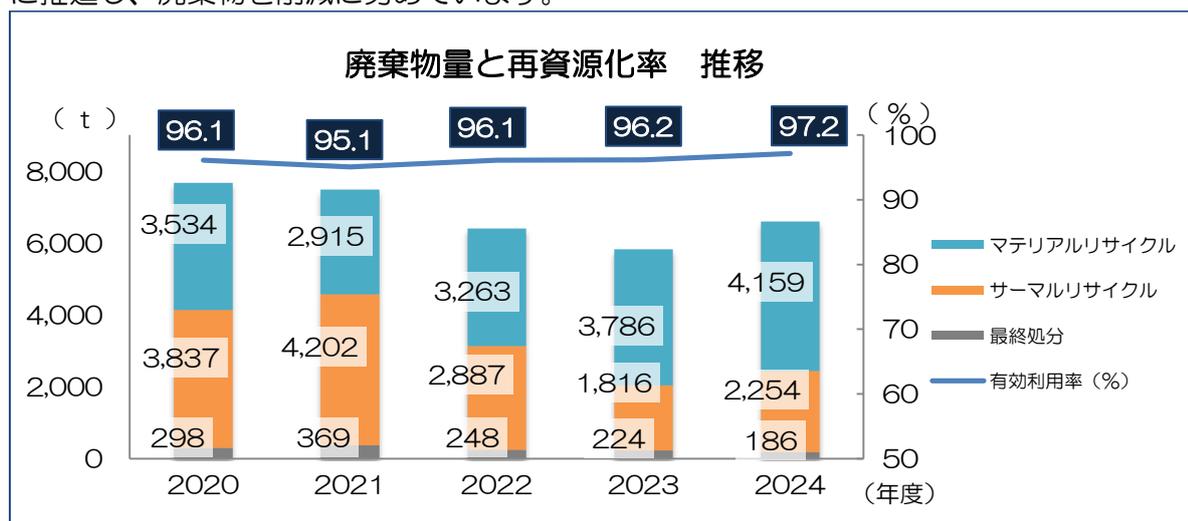
化学物質の管理

PRTR制度の対象となる化学物質の使用量減や含有率が少ない溶剤やインキの選定に努めています。



廃棄物の削減とリサイクル

廃棄物の分別回収と再資源化（マテリアルリサイクル）、熱回収（サーマルリサイクル）を積極的に推進し、廃棄物を削減に努めています。



廃棄物処理業者の選定では、可能な限りリサイクルでの処理を行う業者に委託しています。

廃棄物のRPF化

埼玉工場と滋賀工場では工程内で発生したロスなど、廃プラスチックや古紙を原料とした高カロリーの高熱燃料RPF（Refuse Paper & Plastic Fuel）を製造しています。



労働安全衛生と保安防災

従業員一人ひとりの心身の安全と健康を最優先とした「安全衛生基本方針」を掲げ、「安全第一」「災害ゼロ」を最重要テーマに、労使一体で活動しています。

安全衛生基本方針

日本マタイ株式会社は、「日本マタイグループ企業行動規範」と「日本マタイグループ行動指針」に基づき、人間尊重を原点に当社で働く人々の「安全」と「健康」を守り、快適な職場環境の形成に努め、社会から信頼される企業を目指します。

1. 安全衛生管理体制を構築し、継続的な改善に努める。
2. 自社の危険要因を明確にし、労働災害を撲滅する。
3. 労働安全衛生に関わる法規制を遵守する。
4. 当社安全衛生管理規定に則り、安全衛生活動を推進し、当社で働く全ての人に周知徹底する。

2009年10月 制定
2017年 5月 改定
日本マタイ株式会社
代表取締役社長 中西 孝夫

当社では、安全衛生目標に「災害の撲滅」を掲げ、事業所ごとに全社方針や施策に沿った具体的な安全衛生活動を計画しています。
また、「安全衛生防火委員会」を設置し、安全管理者、衛生管理者、防火管理者が中心となり、従業員に周知させて推進しています。

2024年度 安全衛生目標

目 標	「災害の撲滅」
安 全 魂	「油断大敵」
スロ ー ガ ン	「意識で変える自分の行動 動いて変わるみんなの意識 みんなで作ろう安全職場」
サブスローガン	「安全の基本行動 トラブルが起きたら止める、呼ぶ、待つ」



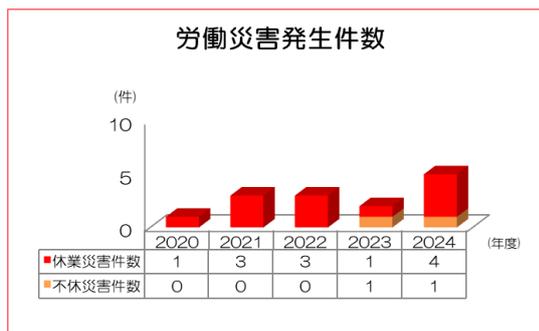
安全衛生防火委員の任命式（兵庫工場）
工場長より安全管理者へ任命書授与の様子



全国安全週間 門立ち・声掛け運動（滋賀工場）

労働災害発生状況

当社では、命に係わる重篤災害を発生させないために、重点を絞った危険個所の洗い出しと対策に取り組み、「災害の撲滅」を掲げて活動しています。



安全衛生パトロール・安全交流会

工場ごとの自主パトロールに加えて、毎月持ち回りで各事業所の安全担当者と労働組合で行うパトロール、グループ内の事業部ごとの安全交流会を実施しています。他事業所の客観的な視点と意見により抽出された危険個所の改善を進めて、従業員が安全で安心して働ける職場を目指しています。



クラフト製造事業 安全交流会（兵庫工場）



安全担当者・責任者によるパトロール（滋賀工場）

作業環境測定

従業員が快適に働くことができる職場環境を提供し、また、従業員の健康障害を防止するために、定期的に混合有機溶剤測定、騒音測定などの作業環境測定を実施しています。測定結果の評価に基づき、各職場の環境改善に取り組んでいます。

（単位：作業場）

測定種類	管理区分	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
		前半	後半								
混合有機溶剤	第1管理区分	8	13	16	16	15	11	15	18	14	14
	第2管理区分	5	2	2	2	3	2	2	2	6	7
	第3管理区分	3	4	1	1	1	4	1	2	1	0
騒音	第1管理区分	17	18	17	21	19	17	20	18	17	25
	第2管理区分	14	11	10	10	11	12	11	11	15	8
	第3管理区分	5	6	8	7	7	6	5	6	5	5

第1管理区分：作業環境管理が適切であり、状態の維持に努める。

第2管理区分：作業環境管理に改善の余地があり、適切な対策を行い、第1管理区分に該当するよう努める。

第3管理区分：作業環境管理が適切でなく、直ちに必要対策を行い、良好な作業環境となるように努める。

安全衛生教育

当社では、「安全を切り口とした、土台のしっかりとした人づくり」を目的に、技能員向けの階層別安全衛生教育を開始しました。

新人研修（新入社員）、基礎フォロー（経験2年目・3年目）、中堅特別（経験5年目程度）、新任監督者、管理者研修（管理職）の階層ごとにカリキュラムを作成し、労働災害をなくすための人づくり（「安全人間」の育成）を進めています。

【安全衛生教育実績】

研修実績	実施日程	受講者数
新人研修（1日研修）	4/10、4/11	12名
中堅特別研修（1日研修）	7/16、18、24	23名
管理者研修（半日研修）	8/30、9/6、12	41名
新任監督者研修（2日研修）	2025/2/6-7	21名
基礎フォロー研修（1日研修）	2025/1/21、29、2/29、3/11、31	45名



新人研修



基礎フォロー研修（経験2年目・3年目）



中堅特別研修（経験5年目）



新任監督者研修

保安防災

当社では、防火マニュアル、危険物取り扱い基準、作業手順に基づく作業を徹底するとともに、万一来て、自衛消防組織の編成、消火栓取り扱い訓練、消火器による消火訓練、避難訓練、AED 取扱い訓練などの環境影響を与える可能性のある事故を想定した緊急事態対応訓練を計画的に実施しています。

社会・地域とのコミュニケーション

地域の皆様や、ステークホルダーの方々との結びつきを強めるため、展示会や報告書による積極的な環境情報の発信を行うとともに、社会・地域貢献活動を展開しています。

社会・地域貢献活動

当社は、地域社会とのコミュニケーション、地域貢献の意識と行動を大切にしています。各事業所で周辺道路や水路の清掃、草刈りや献血などを実施し社会・地域貢献活動に取り組んでいます。

・清掃活動



兵庫工場



埼玉工場



岡山工場

・ペットボトルキャップのリサイクルにて途上国へのワクチン支援



岡山工場



埼玉工場

展示会への出典

当社の事業活動や製品情報をより多くの方に理解して頂くために様々な展示会へ出展を行いました。2024年度は、第18回 国際ガーデン&アウトドアEXPO、東京パルク2024などに出展し、環境に配慮した製品のアピールを行いました。



国際ガーデン&アウトドアEXPO（幕張メッセ）

環境適合型製品

環境適合型既存製品

マテリアルリサイクル
廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法です

製造時に発生したロスをリサイクルし、リサイクル樹脂100%の製品を展開することで、廃棄物の削減に寄与しています。



PE樹脂袋



苗シートカバー

リサイクル樹脂の販売も始めました。
廃棄物が製品に生まれ変わり、環境保全に貢献します。

生分解性プラスチック
使用時は本来の機能を維持し、使用後は微生物の働きによって最終的に水と二酸化炭素に分解されます

環境省・水産庁が進める海洋事業の一環で、生分解性樹脂を使用した漁業用資材の製品化を進めています。



海洋土嚢



三つ撚りロープ



フロートカバー

生分解性素材の使用により、万が一海洋流出しても、自然分解が促されます。
マイクロプラスチック問題の緩和に繋がります。

バイオマスプラスチック
生物由来の有機資源を用いています。石化由来と比較すると、製造時の二酸化炭素排出量の抑制に効果があります

バイオマス樹脂を規定量配合し、日本バイオプラスチック協会よりバイオマスプラマークを取得しました。

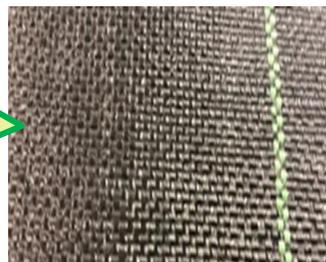


防草クロスシート



バイオマスプラマーク

サトウキビ由来のバイオマスプラスチックを25%以上配合しています。



バイオマス防草シート拡大

環境適合型新製品

当社の環境配慮型フィルムが「くら寿司 大阪・関西万博店」で採用

当社が製造・販売する環境配慮型フィルムが、くら寿司大阪・関西万博店にて提供される「おしぼりの外装材」として採用されました。

本フィルムは、親会社レンゴー株式会社が製造・販売するセロファンを基材に、当社独自のラミネート技術を駆使して開発しました。外装フィルムとして、一般社団法人日本有機資源協会のバイオマスマーク（No.240117）を取得しており、環境負荷の低減と機能性の両立を実現しています。

くら寿司大阪・関西万博店では、外壁素材に廃棄予定の約33.6万枚の貝殻を再利用し、海藻由来の糊等を使った「人工物不使用の漆喰」を採用しています。こうしたサステナブルな店舗を意識していることから、今回の採用につながりました。



当社はレンゴグループの一員として、今後も環境負荷の低減と高品質・高付加価値なパッケージづくりを通じ、より良い社会と持続可能な未来の実現に貢献してまいります。

本件に関する問い合わせ先：日本マタイ株式会社
技術開発本部 商品開発部
TEL：06-6228-2200（代表）

PICK UP /

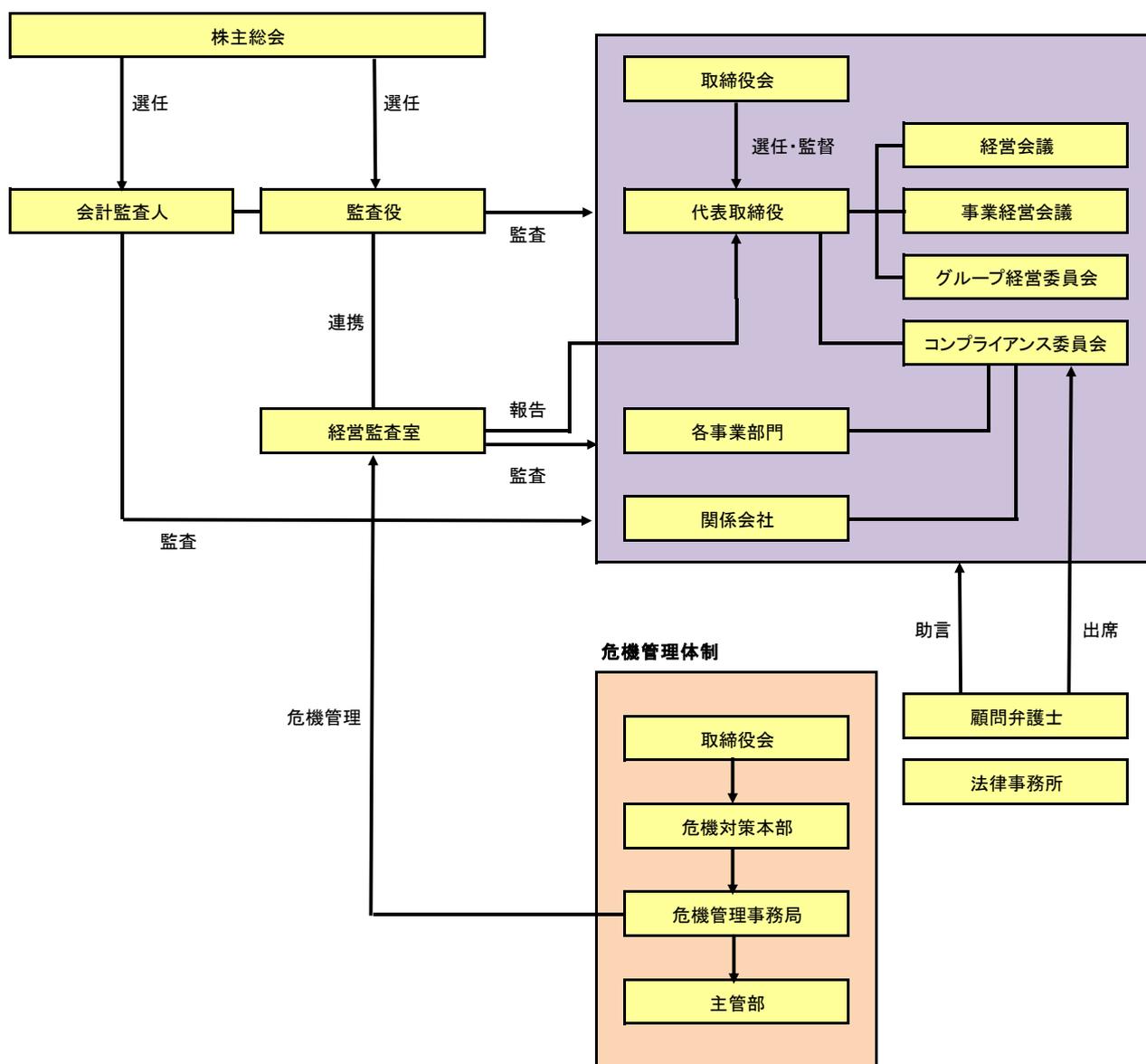
江蘇中金瑪泰医薬包装有限公司 2024年5月に太陽光発電を導入しました。



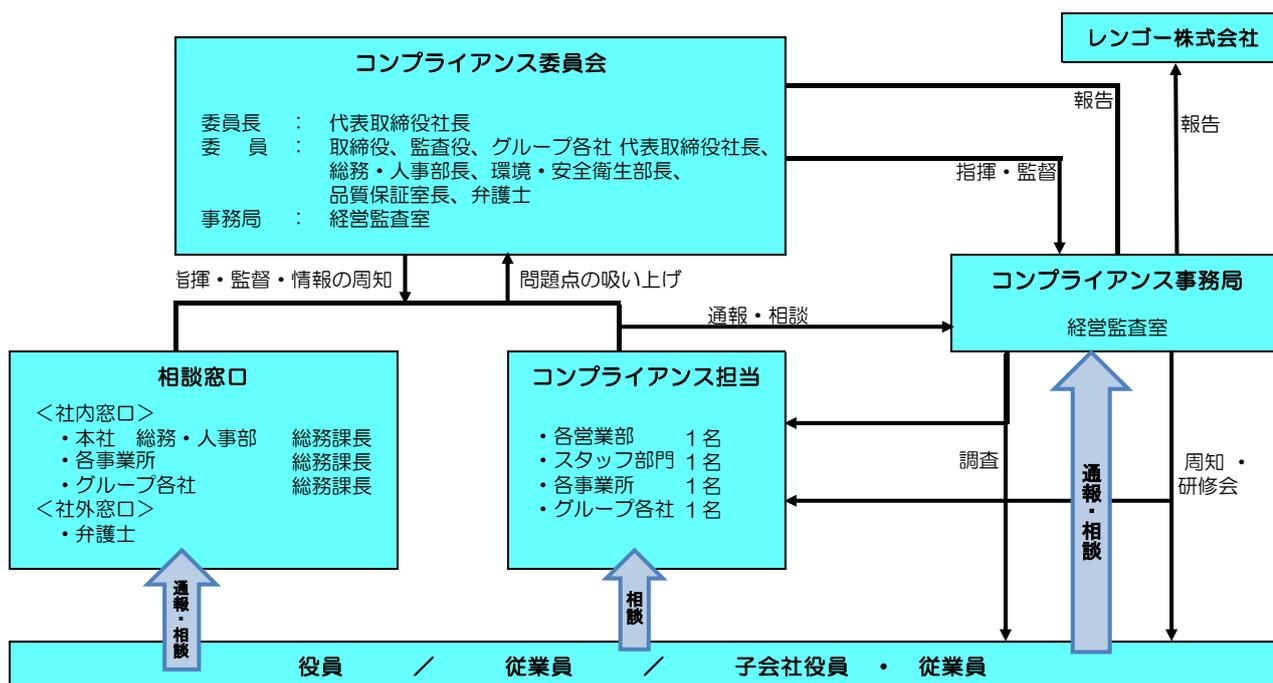
企業倫理の徹底

誠実な企業として社会から信頼をいただくために、コーポレート・ガバナンス体制の強化を推進しています。
 コンプライアンス、情報セキュリティを徹底し、社会的企業価値の最大化に努めます。

内部統制図



日本マタイグループ コンプライアンス運営体系図



日本マタイグループ企業行動規範

第1条

株主、顧客、取引先、地域住民、従業員の納得と満足を追求すると共に社会的価値の創造、提供を行う。

第2条

人権およびすべての法令・ルール遵守とその精神を尊重し、公正かつ自由な競争を行う。

第3条

社会の信用を第一と考え、広く社会に適切な情報開示を行い、経営の透明性と健全性を確保し続ける。

第4条

企業活動の全領域で地球環境との調和を基本とし、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル拡大等を継続的に推進する。

第5条

市民生活の秩序や安全、地域の文化・慣習を尊重し、社会、経済、文化の発展に貢献する。

第6条

グループ全員の個人の人格、個性を尊重しつつ、その資質・能力向上の機会と環境および明るく働きやすい職場環境を提供する。

第7条

役員および幹部社員は本規範の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範して体現、管理指導を行う。

第8条

グループ全員は本規範遵守に努め、万一本規範に反する事態が発生した場合は、原因を究明し、情報を開示し、その責任を明確にし、再発防止を徹底しなければならない。

付則：本規範は2009年11月24日改定、施行する。

日本マタイ 「環境活動」のあゆみ

1999年

- 機能性水性コート製品「アクアコート」の製造開始

2001年

- 「環境推進室」設置
- 「環境基本理念」、「環境方針」の制定

2002年

- 本社、埼玉工場、東京工場においてISO14001 認証を取得
- 埼玉工場に廃プラスチック破碎・造粒設備設置
- 滋賀工場に廃プラスチック破碎・造粒・押出成型設備設置
- 埼玉工場、東京工場の焼却炉廃止

2003年

- 大阪支店、滋賀工場、兵庫工場でISO14001 認証を取得（6事業所の統合認証へ変更）
- 埼玉工場に自家発電設備設置

2004年

- 「環境報告書」（現在の「環境活動レポート」）第1号発行

2006年

- 埼玉工場に排出ガス処理設備設置

2009年

- 環境推進室と品質保証室が統合し「環境推進・品質保証室」となる
- 紙ベースの「環境報告書」からPDF版の「環境活動レポート」に変更

2012年

- 埼玉工場 重ラミネート課、グラビア印刷課でPEFC 森林認証を取得
- 環境省「除染関係ガイドライン」適合品 高耐候性フレキシブルコンテナバッグ「マイコンBK」の製造開始
- 「放射線遮蔽シート」をレンゴー株式会社と共同開発、販売開始

2015年

- 森下株式会社（現 岡山工場）と合併
- ISO14001 の認証範囲に「ネット資材の販売」を追加

2017年

- 埼玉工場 重ラミネート課、グラビア印刷課でFSC®森林認証を取得
- 兵庫工場の焼却炉廃止

FSC®-CoC 認証	認証番号	: SGSHK-COC-350105
	ライセンス番号	: FSC-C134097
PEFC-CoC 認証	認証番号	: SGSJP-PEFC-COC-1631
	ライセンス番号	: PEFC/31-32-147

2018年

- 岡山工場においてISO14001 認証取得
- 日本プラスチック工業連盟が取り組む「プラスチック海洋ごみ問題の解決に向けた宣言書」へ署名

2020年

- 環境推進・品質保証室から環境業務が独立、安全衛生業務が加わり「環境・安全衛生部」となる

2021年

- 「生分解性樹脂紙コップ」で循環型システム実証試験に協力

2022年

- ISO14001 の登録を更新（第7回更新）

2024年

- ISO14001 の認証範囲に「岡山工場 研究所（コンパウンド樹脂の設計・開発及び試作）」を追加

環境関連データ集

- 対象範囲は原則、単体（日本マタイ 4 工場、本社）、関連会社とはマタイ紙工、マタイ東北、三洋加工紙です。
- 法人格の掲載は原則として省略しています。
- 各数値は四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。
- 今年度の集計を行う中で、一部過年度の数値を見直しました。※

① エネルギー使用量 (GJ)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総使用量	(521,984)	(552,108)	(545,348)	481,623 (531,174)	467,644
日本マタイ	(412,506)	(429,230)	(400,489)	368,657 (402,087)	378,203
関連会社	(113,615)	(126,855)	(148,624)	112,966 (129,087)	89,442

() : 旧省エネ基準での換算値

② CO₂ 排出量 (t-CO₂) ※

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	
総排出量	Scope1	5,657	4,664	4,385	4,590	4,509
	Scope2	17,832	19,416	16,163	15,914	18,918
日本マタイ	Scope1	4,344	4,379	4,134	4,340	4,270
	Scope2	13,140	13,161	10,228	10,349	14,601
関連会社	Scope1	1,313	285	251	250	239
	Scope2	4,692	6,255	5,935	5,565	4,317

③ 再生可能エネルギー使用量 (kwh)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
関連会社				74,793	298,688

④ 水資源使用量 (m³)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総使用量	170,055	172,530	158,469	149,063	164,322
地下水	91,271	79,920	72,978	67,176	67,271
工業用水	37,816	52,782	51,484	48,220	54,840
上水	40,968	39,828	34,007	33,667	42,211

⑤ 再生・バイオマス・生分解 原材料の投入量 (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総再生樹脂	1,057	1,201	953	905	765
(内 自社起因再生樹脂)	344	408	319	204	217
バイオマス樹脂	22	233	224	305	365

⑥ 生産量 (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
製品重量	45,488	49,201	45,845	44,727	45,521

⑦ 廃棄物 (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総排出量	7,669	7,486	6,399	5,825	6,599
マテリアルリサイクル	3,534	2,915	3,263	3,786	4,159
サーマルリサイクル	3,837	4,202	2,887	1,816	2,254
最終処分	298	369	248	224	186
有効利用率 (マテリアル+サーマルリサイクル率)	96.1%	95.1%	96.1%	96.2%	97.2%

⑧ プラスチック使用製品産業廃棄物等 (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
総排出量	3,945	3,496	2,866	2,465	3,092
マテリアルリサイクル	131	157	58	752	936
サーマルリサイクル	3,577	3,032	2,610	1,576	2,022
最終処分	236	308	198	137	134
有効利用率 (マテリアル+サーマルリサイクル率)	94.0%	91.2%	93.1%	94.4%	95.7%

⑨ RPF 製造量 (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
RPF	1,309	1,846	1,924	1,938	1,581

⑩ VOC 排出量 (PRTR 対象物質を含む) (t)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
使用量	971	1,140	1,033	1,060	1,054
大気への排出量	610	767	686	704	698

[お問い合わせ先]

日本マタイ株式会社
環境・安全衛生部

〒 111-8522

東京都台東区元浅草二丁目 6 番 7 号

TEL : 03 - 3843 - 2128

FAX : 03 - 3845 - 3103

URL : <http://www.matai.co.jp/>

2025 年 9 月発行

2026 年 2 月発行 (Ver.2)